



ブルボン 環境報告書 2023

BOURBON Environmental Activity Report



© フォクマ

おいしさ、思いやり、いつもいっしょに。



Since 1924

おいしさ、思いやり、 いつもいっしょに。

Contents

■ごあいさつ	01
■持続可能な未来社会へのアプローチ、環境マネジメントシステム	02
■目標と実績	04
■環境との関わり	06
■地域資源を活用した魚沼工場	07
■地球温暖化防止活動	08
■廃棄物削減・リサイクル活動	11
■省資源活動	12
■省エネルギー・環境リスクマネジメント活動	14
■環境の保全・維持、社会との共生	15

●記載対象期間 2022(令和4)年4月1日～2023(令和5)年3月31日

●記載対象範囲 株式会社ブルボン (グループ会社は対象外)

ごあいさつ

持続可能な社会を目指して



当社では「健康は環境から」をモットーに、環境問題は健康と密接に関連があると考えています。それは、安全な商品と安心の提供、それらを安定的に供給することが当社の責務であり、責務を果たすことがお客様の健康につながり、責務を果たす過程で持続可能な社会の構築にむけた課題解決が必要となっていくためです。

食の安全と安定供給体制維持のため、気候変動対策や脱炭素、廃棄物対策等への積極的な取り組みが求められるほか、それらを実践する社員が長く活躍できる就業環境の整備や、社会の変化に対応したコーポレート・ガバナンスの充実など、企業の社会的責任も求められています。2015年に国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）の課題解決を含めたサステナブルな社会の構築のために、多様な観点から継続的に取り組み、改善していく必要があります。

当社は、経営理念として「利害相反する人を含めて、集団の生存性を高める」を掲げ、当社を取り巻く七媒体（消費者、流通、国・県・市町村、株主、金融機関、取引先、従業員）の全ての生存性を高める企業活動を目指しております。この活動の一つとして、行動規範・指針を策定し、役員および従業員全員で社会への貢献、国際社会ルールへの適応、人間尊重などの基本方針に沿った取り組みを推進してまいりました。また、環境問題に対しましても、環境基本理念として「顧客の要望に応える品質水準で、安全・安心・経済的な飲食とサービスを継続的に提供するため、製品の研究開発、販売、流通、消費、廃棄に至る各段階で地球環境の保全と環境問題について自主的な改善活動に取り組み、社会に貢献することが、私たちの環境活動です。」を掲げ活動を推進してまいりました。さらにこの活動が、組織・システムとして機能するように、ISO14001環境マネジメントシステムの構築を図り、2000（平成12）年6月の認証取得以来、継続した改善を行ってまいりました。

当社では今後も、食品製造企業として「品質保証第一主義」に徹した種々の活動に継続して取り組んでまいります。“食”を通じて豊かな生活と健康への寄与など皆様の幸せな生活に深く関わるとともに、全社一丸となってこの考えをさらに推し進め、環境保全を含めた“心と体の健康づくり”をテーマに、持続可能な未来社会をデザインしていく健康増進総合支援企業として、継続的な発展と社会への貢献を目指してまいります。本報告書により2023年3月までの当社グループの環境保全活動をご報告いたします。

皆様からの忌憚のないご意見やご指導を賜りますようお願い申し上げます。

株式会社 **ブルボン**
代表取締役社長 **吉田 康**

持続可能な未来社会へのアプローチ

株式会社ブルボンは、関東大震災の影響により地方への菓子供給が全面的にストップした窮状を見て、地方での量産工場による菓子作りを決意し、1924（大正13）年に新潟県柏崎で創業しました。以来、災害や社会的困難が起きた時にも「お役に立てる企業であり続ける」という創業の原点継承を本願として事業活動を継続してきました。当社の主要な事業のひとつであるお菓子作りは平和な社会の礎がないと成り立ちません。平和の尊さと心を通わせることの大切さを感じながら、菓子・飲料・食品・マスクの開発・製造・販売を通じて豊かな生活と健康への寄与など皆様の幸せな生活に深く関わってきました。このような思いを込めた当社の経営理念「利害相反する人を含めて、集団の生存性を高める」を通じて、社会全体が良くなることに貢献すること、そのことが結果的に自分たちの会社やグループの向上につながることを目指しています。この“生存性を高める”とは、すなわち“持続可能であること”であり、SDGsに呼応することと考えています。これからも社会の一員として役割と責任を果たすよう正しく行動し、社会への貢献を推進してまいります。



環境マネジメントシステム

環境基本理念

顧客の要望に応える品質水準で、安全・安心・経済的な飲食とサービスを継続的に提供するため、製品の研究開発、販売、流通、消費、廃棄に至る各段階で地球環境の保全と環境問題について自主的な改善活動に取り組み、社会に貢献することが、私たちの環境活動です。

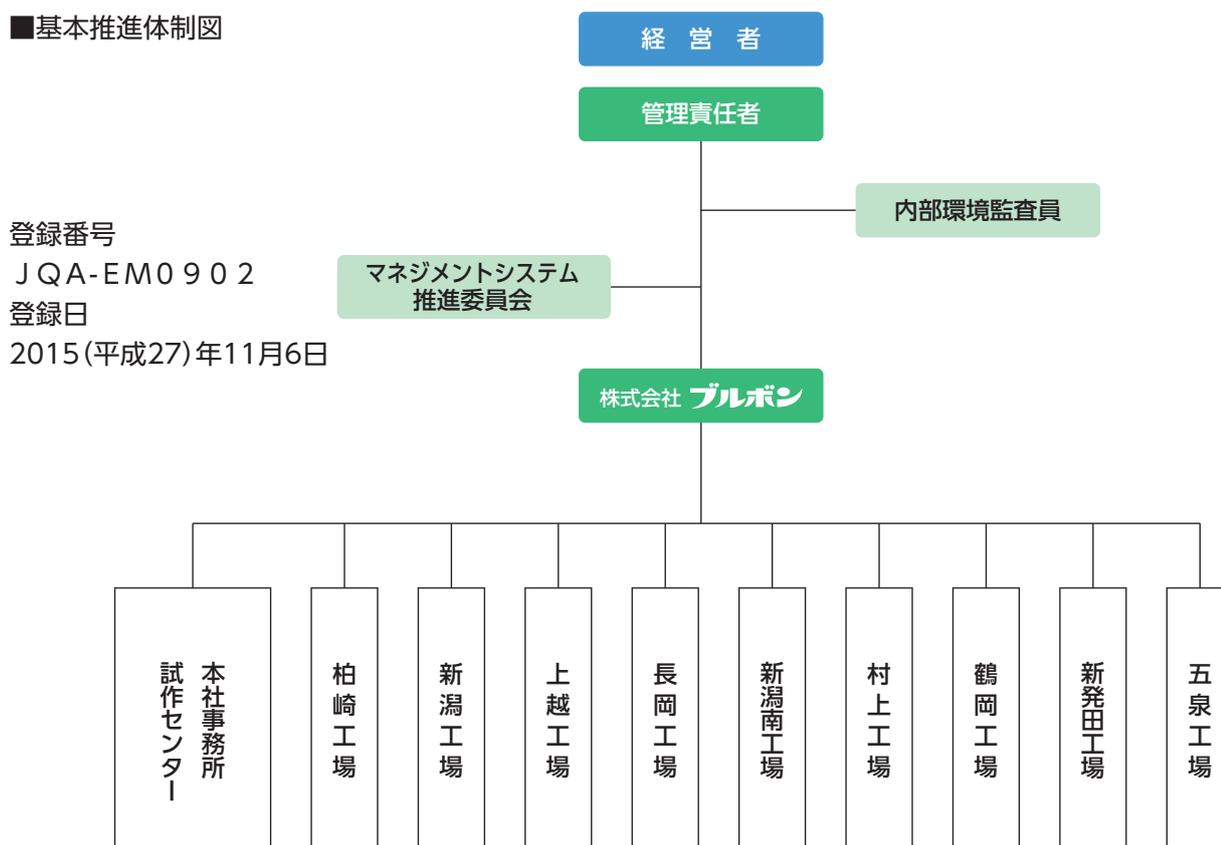
環境基本方針

- ① 食品企業として、原材料調達、開発、生産、販売、流通、消費、廃棄に至る各段階に於いて地球環境に影響する問題を、可能な範囲内に於いて自主的な取り組みを行い、環境改善の向上に取り組みます。
- ② 環境問題について継続的な改善と汚染予防に取り組みます。
- ③ 環境の関係法令、規則、協定等を順守致します。
- ④ 環境目標を設定し、環境に影響する問題の低減を図り、環境マネジメント体制の整備に取り組み、環境目標の見直しを継続して行います。
- ⑤ 環境パフォーマンスを向上させるため、環境マネジメントシステムを継続して改善していきます。

推進体制

当社では、環境問題に対する全社的な取り組みを行うためにISO14001を基軸とした環境マネジメントシステムを構築しています。直接的な環境影響に加え間接的な環境負荷の継続的改善にも取り組みながら、一層の社会的責任を果たすため、環境マネジメントシステムの改善を進めてまいります。

■基本推進体制図



主な環境関連法

項目	環境関連法			
環境一般	● 環境基本法	● 循環型社会形成推進基本法	● 公害防止組織法	
地球環境関連	● 地球温暖化対策推進法	● オゾン層保護法	● フロン排出抑制法	
大気汚染関連	● 大気汚染防止法			
水質汚濁関連	● 水質汚濁防止法	● 下水道法		
騒音・振動関連	● 騒音規制法	● 振動規制法		
悪臭関連	● 悪臭防止法	● 浄化槽法		
エネルギー関連	● 省エネルギー法	● 建築物省エネ法		
廃棄物関連 リサイクル関連	● 廃棄物処理法	● プラスチック資源循環促進法	● その他各種リサイクル法	
	● 食品リサイクル法	● 容器包装リサイクル法		
化学物質関連	● PRTR法			
安全関連	● 労働安全衛生法	● 高圧ガス保安法	● 毒物、劇物取締法	● 消防法
土壌汚染関連	● 土壌汚染対策法			

目標と実績



本社・各工場の目標と実績 (主な活動の抜粋)

経営者の定めた環境方針の達成および環境活動による実績を継続的に改善するため、環境目的・目標を立案し、それぞれの活動の進捗・遂行管理を行い取り組んでいます。

実績は次の活動への参考データとし、より一層の活動推進に取り組みます。

《2022年度環境目標・実績 (抜粋)》

〈達成状況〉 評価内容 計画通りに推移している…◎ 目標に向けて順調に推移している…○ 継続した取り組みを行う…△

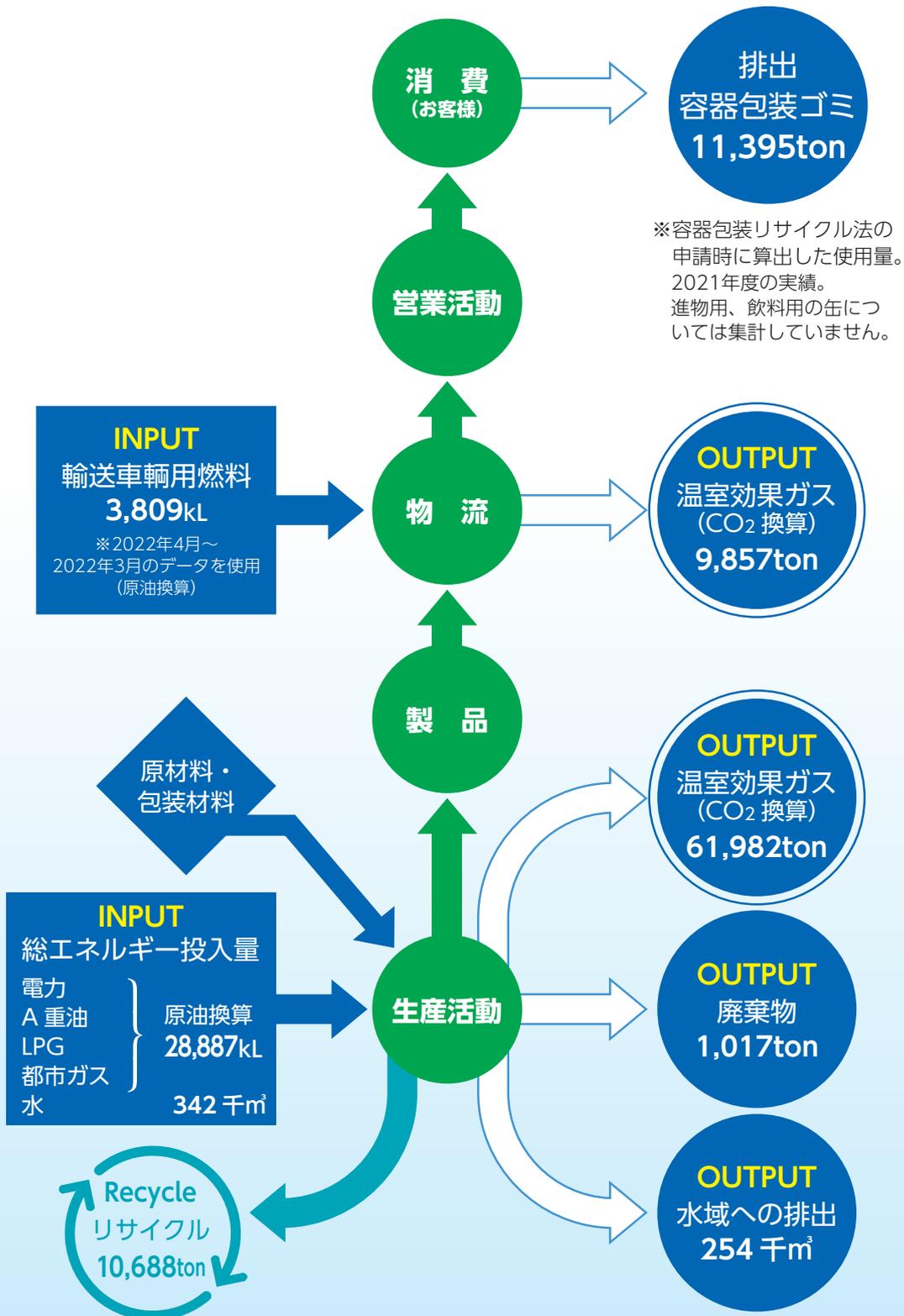
		2022年度目標	2022年度実績	達成状況
本社・試作センター	 本社ビル	●エネルギー使用量を、原単位で2021年度比1.0%削減する	原単位 2.2%削減	◎
		●廃棄物排出量を、原単位で2021年度比3.0%削減する	原単位 5.2%増加	△
	 試作センター	●規格外品発生量を、原単位で2021年度比5.0%削減する	原単位 5.8%増加	△
		●輸送エネルギー使用量を、原単位で2021年度比1.0%削減する	原単位 2.4%増加	△
		●30件の商品包装材の減量化・見直しを行う	38品の減量化、見直しを実施	◎
		●36件の環境対応素材の導入を行う	31件の導入を実施	○
		●品質と収益性の向上を目指した機械開発、導入を行う	6件の機械開発、導入を実施	○
柏崎工場		●電気、LPG、都市ガスの原油換算量を、原単位で2021年度比1.0%削減する	原単位 5.6%増加	△
		●水道使用量を、原単位で2021年度比1.0%削減する	原単位 2.5%増加	△
		●廃棄物排出量を、原単位で2021年度比3.0%削減する	原単位 7.8%増加	△
		●規格外品発生率を、2021年度比8.0%削減する	発生率 11.2%増加	△
		●工場廃棄物を削減し、リサイクル率を90%以上にする	リサイクル率 92.9%	◎
新潟工場		●電気の使用量を、原単位で2021年度比1.0%削減する	原単位 11.4%削減	◎
		●重油、LPG、都市ガスの原油換算量を、原単位で2021年度比1.0%削減する	原単位 7.5%削減	◎
		●廃棄物排出量を、原単位で2021年度比1.0%削減する	原単位 5.9%増加	△

		2022年度目標	2022年度実績	達成状況
上越工場		●電気の使用量を、原単位で2021年度比1.0%削減する	原単位 0.3%増加	△
		●LPG使用量を、原単位で2021年度比1.0%削減する	原単位 1.7%増加	△
		●都市ガス使用量を、原単位で2021年度比1.0%削減する	原単位 6.7%削減	◎
		●廃棄物排出量を、原単位で2021年度比3.0%削減する	原単位 4.7%増加	△
		●規格外品発生率を、2021年度比で8.0%削減する	発生率 0.8%増加	△
長岡工場		●電気、A重油、LPGの原油換算量を、原単位で2021年度比1.0%削減する	原単位 22.8%増加	△
		●廃棄物排出量を、原単位で2021年度比3.0%削減する	原単位 23.7%増加	△
		●主力商品における規格外品発生率を2021年度比5.0%削減する	発生率 3.3%増加	△
新潟南工場		●電気、LPG、都市ガスの原油換算量を、原単位で2021年度比1.0%削減する	原単位 0.9%削減	○
		●廃棄物排出量を、原単位で2021年度比3.0%削減する	原単位 5.0%削減	◎
村上工場		●電気、A重油、LPGの原油換算量を、原単位で2021年度比1.0%削減する	原単位 3.8%増加	△
		●廃棄物排出量を、原単位で2021年度比3.0%削減する	原単位 1.3%増加	△
新発田工場		●電気の使用量を、原単位で2021年度比1.0%削減する	原単位 1.4%増加	△
		●LPG使用量を、原単位で2021年度比1.0%削減する	原単位 0.6%増加	△
五泉工場		●全移動用段ボールに対するコンテナ使用比率を35%以上にする	コンテナ使用率 27.4%	△
鶴岡工場		●省エネルギー活動を推進し原単位で2021年度比1.0%削減する	原単位 13.1%削減	◎
		●規格外品発生率を、2021年度比5.0%削減する	発生率 8.3%増加	△

環境との関わり



当社は、事業活動として菓子、飲料、食品、マスクを製造し、お客様へ提供しています。製造に使用する原料、包装材料、製造・加工のためのエネルギー、お客様へお届けするための輸送のエネルギーは、全て環境からの恩恵を消費し、製造・加工に伴い発生する不要物を排出しています。環境負荷の低減については、どんなに小さな活動でも、継続して実施していくことが大切です。自らの活動がどのように環境と関係しているのかを、正しく認識するとともに、率先した環境への取り組みを実践してまいります。



地域資源を活用した魚沼工場



魚沼工場 外観

2022年に、当社10か所目の工場として魚沼工場が稼働しました。

魚沼工場には地域資源の「雪」を活かした雪室を併設しており、チョコレート商品の付加価値向上に取り組んでいます。また、太平洋側の湾岸倉庫だけではなく、内陸部での原料品の保管による災害時等へのリスク対応の強化も図ってまいります。



貯雪庫内→

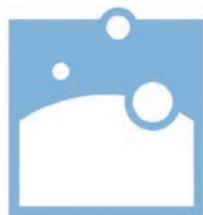
←貯雪庫外観



「雪室」は、雪を利用した天然の冷蔵庫です。年間を通じて温度変化が少なく、多湿な環境が保たれることで保冷や熟成に適した環境を維持することができます。また、雪という自然の力を活用していることから、近年は、電力やエネルギー消費が少なく、環境にやさしいクリーンな設備としても注目されています。

魚沼工場については、雪の冷気を利用しチョコレートの原料となるカカオ豆を貯蔵することで、品質の向上を図っています。

付加価値を高めた商品開発



雪室商品
ブランドロゴ



雪室ショコラ

2022年11月に、魚沼工場の雪室設備で熟成させたカカオ豆を使用した「雪室ショコラ」を発売しました。

雪室貯蔵特有の低温多湿な冷風によって熟成されたカカオ豆は、クリアで繊細な味わいに仕上がリ、チョコレートにすると、余分な苦味や渋みが削ぎ落とされ洗練された味わいとなります。

雪の結晶のように六角形に形どったチョコレートは、雪をモチーフとしたデザイン6種類を模様づけしました。今後も、地域資源を活用し付加価値を高めた商品の開発を通じて地域活力の向上と魅力の再発見につなげてまいります。



地球温暖化防止活動



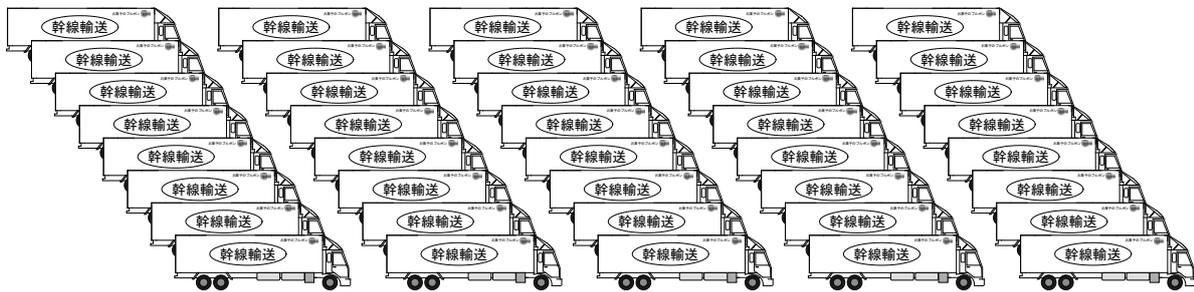
モーダルシフトの推進

当社の鉄道コンテナによる輸送は、当時の国鉄がコンテナ使用を開始した年と同じ1931年（昭和6年）からと古く、初代社長吉田吉造は当時日本海側に無かったコンテナの指定駅に柏崎駅を上申するなどして、その利用の拡大を図ってきました。

現在は、CO₂削減対策として、トラック輸送から環境にやさしい鉄道や船舶によるエコ輸送への転換（モーダルシフト）に取り組んでいます。トラックドライバー不足（労働力不足）の問題も深刻化しているなかで、さらにモーダルシフトを推進し、脱炭素化や地球温暖化防止に貢献するアプローチを行うとともに、物流業界の課題解決にも努めています。

幹線トラック輸送

12フィートコンテナ100台分の商品をトラックで輸送すると、
10tトラックが40台必要、ドライバーも40人必要。



鉄道コンテナ

1度の運行で輸送可能な12フィートコンテナ数は
1両あたり5台×20両=100台。



運転士人数

鉄道貨物輸送のCO₂排出量は
トラック輸送の約13分の1

コンテナ大型化の推進

12フィートコンテナを31フィートコンテナへ大型化し、トータル輸送台数の削減を図っています。2022年8月には新潟ターミナル駅を起点に岡山ターミナル駅および福岡ターミナル駅間で、「プチ」シリーズのキャラクター「プチクマ」のラッピングを施した貨物鉄道用コンテナ「プチクマコンテナ」の運用を開始しました。お菓子を積んだ“プチクマコンテナ”により、多くの方に笑顔をお届けしてまいります。



© プチクマ

エコレールマーク認定商品

当社は、国土交通省ならびに公益社団法人鉄道貨物協会が実施する“エコレールマーク^{※1}”活動に賛同し、2006（平成18）年に“エコレールマーク取組企業^{※2}”の認定を受けました。また同年12月には、当社商品「イオン水」「天然名水出羽三山の水」「プチ」シリーズ等で“エコレールマーク認定商品^{※3}”の認証を受けるなど活動を進めてまいりました。2020（令和2）年7月には、「ルマンド」を含む「オリジナルビスケット」シリーズ、2022年11月には「ロアンヌ」シリーズで認証を取得し、現在は40品近くの商品パッケージにエコレールマークの掲載を行っています。



- ※1 エコレールマーク：環境や地球にやさしい、鉄道貨物輸送を一定割合以上活用し、地球環境問題に積極的に取り組んでいる企業や商品であることを表示するマークです。
- ※2 エコレールマーク取組企業：500km以上の陸上輸送のうち、鉄道の利用率が数量または数量×距離のいずれかで15%以上であること。もしくは、年間の鉄道利用数量が15,000トン以上または数量×距離が1,500万トンキロ以上であることが要件です。
- ※3 エコレールマーク認定商品：500km以上の陸上輸送のうち、鉄道の利用率が数量または数量×距離のいずれかで30%以上であることが要件です。

ホワイト物流自主行動宣言

国土交通省、経済産業省、農林水産省が推進する「ホワイト物流推進運動」に賛同し、自主行動宣言を提出しています。近年のトラック輸送における人員不足や労働時間などの課題に対して、宣言した7項目への継続した取り組みを通じ、トラック輸送における作業環境と労働環境の改善などの働き方改革を、業界と連携して推進してまいります。

取組項目	取組内容
物流の改善提案と協力	物流事業者からの荷待ち時間や荷役時間の削減等の物流効率化提案があった場合協議に応じ、相互協力して物流効率化の推進に努めます。
パレット等の活用	トラックドライバーの荷役作業の削減のため長距離幹線輸送の更なるパレット輸送の推進に努めます。
集荷先や配送先の集約	事前に輸送する商品を集約して積み込み場所の削減を図ります。また配送先についても直送先を再検討し、可能な部分は集約できるよう努めます。
リードタイムの延長	長距離幹線輸送の出発から到着まで物流事業者より、リードタイムの延長について要請があった場合、真摯に協議に応じます。
船舶や鉄道へのモーダルシフト	長距離幹線輸送について発送するコンテナの大型化等、更なる鉄道貨物輸送へのモーダルシフトを推進し、環境負荷の低減に取り組みます。
納品日の集約	物流業者より1日では配送量が一定に満たない地域の隔日、定曜日配送について要請があった場合、真摯に協議に応じます。
異常気象時等の運行の中止・中断等	台風、地震などの災害、異常気象が発生、または発生が予測される際は、災害地の状況を考慮して無理な運行の依頼はしません。また物流事業者から乗務員の安全の確保のため運行の中止・中断の要請があった場合は応じます。

脱炭素社会に向けた取り組み

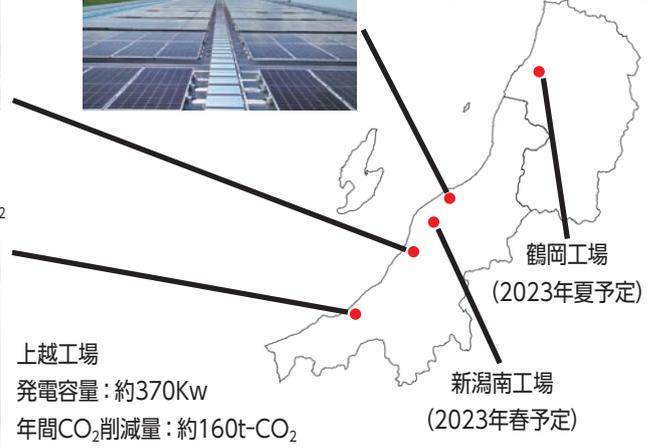
世界的に深刻化する気候変動問題を踏まえ、脱炭素社会の実現に向けた温室効果ガス排出量の実質ゼロをめざす動きが広まっています。国内でも太陽光などの再生可能エネルギーを使用して発電した電力を自家消費することで、事業活動におけるCO₂の排出量を削減する取り組みが拡大しています。当社では、環境負荷低減活動の一環として、2020年に新発田工場で自家消費型太陽光発電(PPA)を開始し、2022年には上越工場でも開始しました。2023年度の運用開始を目指し新潟工場、新潟南工場、鶴岡工場でも準備を進めています。



新潟工場 (2023年春予定)
発電容量: 約865Kw
年間CO₂削減量: 約390t-CO₂



新発田工場
発電容量: 約410Kw
年間CO₂削減量: 約196t-CO₂



上越工場
発電容量: 約370Kw
年間CO₂削減量: 約160t-CO₂

新潟南工場
(2023年春予定)

鶴岡工場
(2023年夏予定)

水性グラビア印刷包材を使用した商品

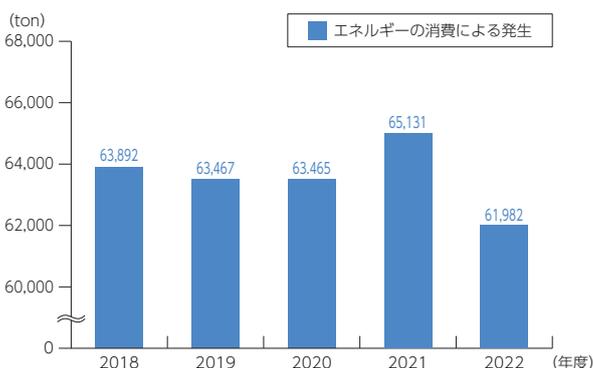
「水性グラビア印刷」は、油性グラビア印刷と比較して、印刷工程での大気中への二酸化炭素排出量を低く抑えることができるほか、揮発性有機化合物(VOC)の使用・排出を抑制する効果があります。VOCの排出抑制は印刷作業環境の改善、作業従事者の健康維持などに繋がっています。また、水性グラビア印刷を採用したパッケージには、地球と人にやさしい水性印刷を施した包装材料を使用した商品であることを示す“水性印刷商品認証マーク※”を商品に表示しています。当社では引き続き、消費者のみならず、商品にかかわる人々の環境と健康にも配慮した商品設計を行い、積極的に推進してまいります。



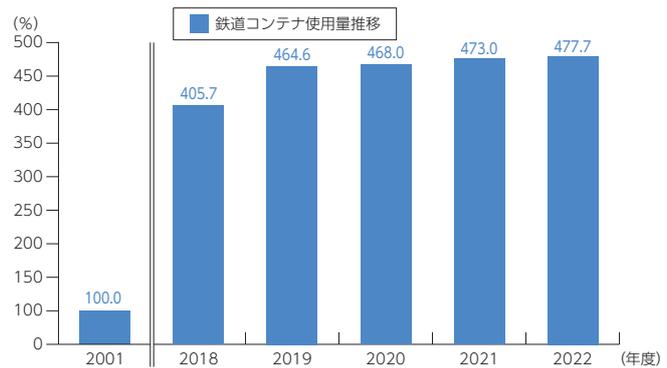
※ 水性印刷商品認証制度：包装材料の印刷作業環境を改善し、作業従事者の健康維持を図るとともに、大気への揮発性有機化合物の排出抑制等、環境に対する企業の社会貢献活動を促進する目的で創設され、一般社団法人健康ビジネス協議会が実施している認証制度です。

温室効果ガスの排出抑制

■全工場の二酸化炭素発生量



■製品輸送 鉄道コンテナ使用推移



※2001年度を100とした場合

廃棄物削減・リサイクル活動

循環型生産システムの構築



当社では、工場での製造時に発生する規格外品を、養鶏業者等の原料生産者に飼料として再利用してもらい、収穫・加工された原料を製造に使用する、「循環型サプライチェーン」の確立に取り組んでいます。この取り組みにより、規格外品の有効利用と廃棄物の削減を図っています。

今後も、生産性向上による規格外品の発生抑制を図り、やむを得ず発生するものについては、再利用方法の検証を重ね、安心・安全な原料調達や、安定した商品供給を行い、地域の一員としてサステナブルな社会の構築を目指してまいります。

カカオシェルを利用した抹茶用茶葉の栽培

カカオ豆の外皮であるカカオシェルが土壌環境改善や堆肥として有効活用されている例に着目し、当社工場が発生するカカオシェルを、抹茶用茶葉の栽培における土壌改良剤として利用する取り組みを開始しました。

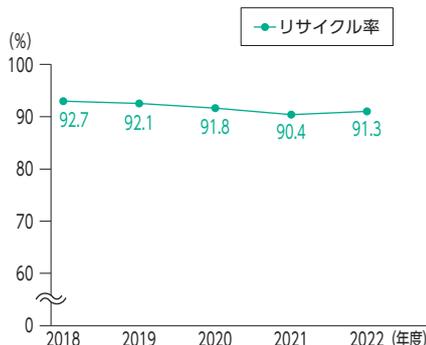
カカオシェルを散布することにより、土壌の水はけの向上や雑草の生育抑制が期待できます。

今後も生産者の方々と協業することで試行錯誤を重ね、廃棄せざるを得なかった部分の活用方法を検証し、当社商品の原料とするための安定した収穫と、付加価値の創出につなげてまいります。

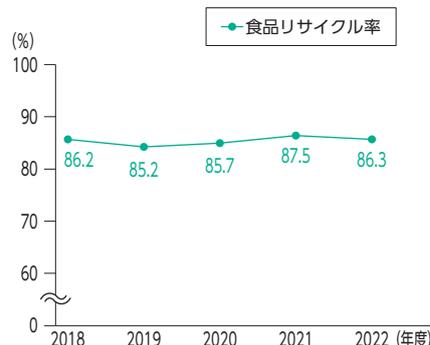


各種リサイクル率の推移

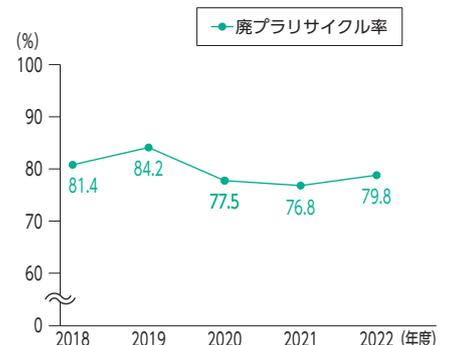
■全工場の廃棄物リサイクル率推移



■全工場の食品廃棄物リサイクル率推移



■全工場の廃プラスチック類リサイクル率推移



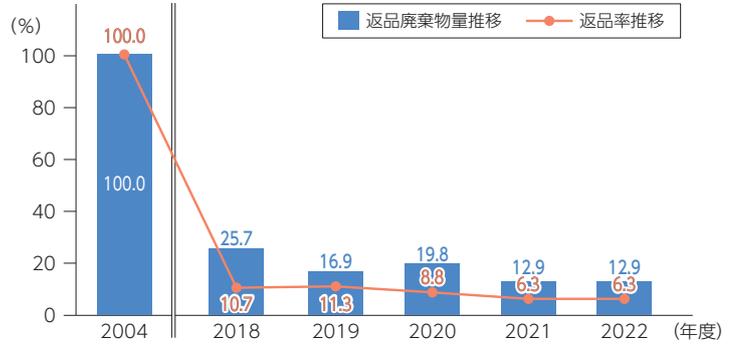
省資源活動



返品廃棄物削減の取り組み

返品削減活動に取り組み、商品の先入れ先出し管理の徹底や、適正量の管理などに継続して取り組んでいます。その結果、2004（平成16）年度比93.7%削減することができました。また、返品された商品は産業廃棄物として処分していますが、処分量についても2004年度比85.3%削減しています。

■返品廃棄物量および返品率推移



※2004年度を100とした場合

環境配慮型包材を使用した商品

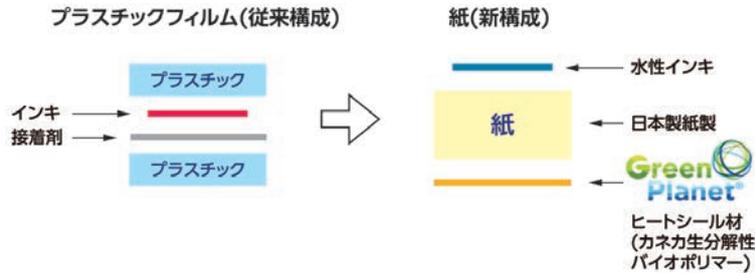
当社では、石油由来プラスチック使用量の削減とプラスチックゴミの課題解決に向けた活動を推進しています。

①紙の比率を大きく高めたパッケージの採用

日本製紙株式会社および株式会社カネカと共同開発したヒートシール紙を「4種のひとくちスイーツ」の外装に採用しました。従来はプラスチックフィルムの複層構成としていたパッケージを、大部分を紙で構成した仕様としたことでプラスチック使用量の削減を図りました。また、環境に配慮した水性インクによるインクジェット印刷を取り入れています。



4種のひとくちスイーツ



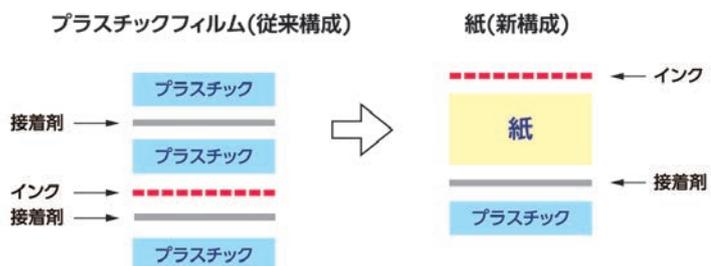
※Green Planet®は、二酸化炭素の排出量削減や地球環境保全に貢献する生分解性バイオポリマーです。100%植物由来のポリマーで優れた生分解性を有します。幅広い環境下でも生分解が進み海洋や土壌汚染の低減に大きく貢献することが期待できます。

②「贅沢ルマンド」シリーズのプラスチック使用量削減

「贅沢ルマンド」シリーズの外装の見直しを図りました。プラスチックフィルムの大部分を紙に変更することで、プラスチック使用量の削減に取り組みました。包装適正やデザインは従来のプラスチックフィルムと同等に保ちつつ、従来品と比較してプラスチックの重量を60%以上削減しました。年間で約35トンのプラスチック使用量の削減を見込んでいます。



贅沢ルマンドシリーズ



③ バイオマスプラスチックの使用

商品パッケージの材料の一部や、商品を保護することを目的に使用しているトレーの一部に植物由来のバイオマスプラスチックを使用しています。パッケージにバイオマスマーク※を掲載しているほか、トレー部分にはバイオマスマークを刻印しています。



© プチクマ

※バイオマスマーク：

生物由来の資源（バイオマス）を活用し、品質および安全性が関連する法規、基準、規格等に適合している環境商品に付与できるマークです。2006年8月から、一般社団法人日本有機資源協会が認定しています。

バイオマスプラスチック20%配合パッケージ（プチシリーズ）



バイオマスプラスチック25%配合トレーと使用商品一例

④ FSC認証紙の使用

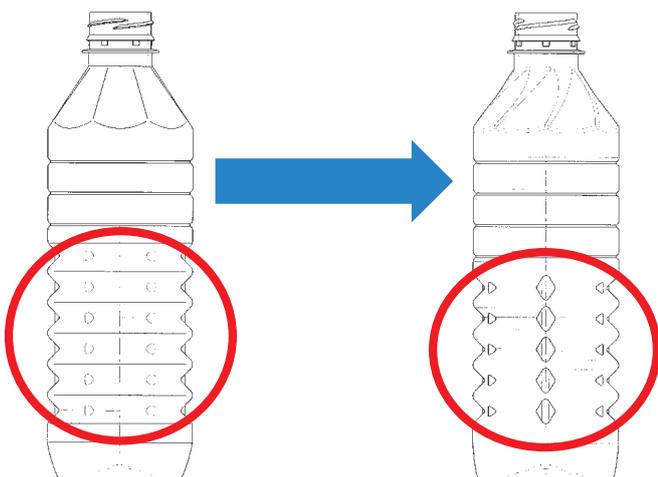
森林管理における環境、社会、経済的影響を考慮した10の原則、70の基準に基づき認証された、FSC認証林や、再生資源およびその他の管理された原材料で作られた紙の使用を進めています。FSCマークが付与された商品をお客様が選んでいただくことで、森林や生物多様性の保護などが期待できます。



FSC認証紙使用
商品一例



ペットボトルの軽量化



当社ミネラルウォーター商品で使用しているペットボトルは自社成型しています。ペットボトルの設計を見直し、キャップシールやラベルの薄肉化、素材の一部に植物由来の原料を配合するなど、省資源化に取り組みました。500mlペットボトルにおいては、6か所のリブのうち3か所を強化したことにより強度を保ちながら軽量化を図り、約24%の軽量化を実現しました。

省エネルギー・環境リスクマネジメント活動



省エネ法に基づく評価

Sクラス 省エネが優良な事業者 (目標達成事業者)	Aクラス 省エネの更なる努力が 期待される事業者 (目標未達成事業者)	Bクラス 省エネが停滞している事業者 (目標未達成事業者)	Cクラス 注意を要する事業者 (目標未達成事業者)
【水準】 ※1 ①努力目標達成 または、 ※2 ②ベンチマーク目標達成	【水準】 Bクラスよりは省エネ水準 は高いが、Sクラスの水 準には達しない事業者	【水準】 ※1 ①努力目標未達成かつ直近 2年連続で原単位が対前 年度年比増加 または、 ②5年間平均原単位が5% 超増加	【水準】 Bクラスの事業者の中で特 に判断基準遵守状況が不 十分
【対応】 優良事業者として、経産 省HPで事業者名や連続 達成年数を表示。	【対応】 省エネ支援策等に関する 情報をメールで発出し、努 力目標達成を推進。	【対応】 注意喚起文書を送付し、現 地調査等を重点的に実施。	【対応】 省エネ法第6条に基づき指 導を実施。

経済産業省資源エネルギー庁が管轄し2015年から実施している「省エネ優良事業者評価制度*」において、当社は**制度開始から8年間連続で省エネ優良事業者 (Sクラス☆印) を獲得**しています。

※省エネ法の定期報告を提出する全ての事業者を、経済産業省が優れた順に4段階 (S、A、B、C) クラス分けし、Sランクの優良事業者を同省ホームページで公表するものです。

※1 努力目標：5年間平均原単位を年1%以上低減すること。
 ※2 ベンチマーク目標：ベンチマーク制度の対象業種・分野において、事業者が中長期的に目指すべき水準。
 ※3 定期報告書、中長期計画書の提出遅延を行った事業者は、Sクラス事業の公表・優遇措置の対象外として取り扱うことがあります。

①変圧器の更新

電気設備に高効率変圧器の導入により、エネルギー使用量を前年比約45%削減しました。



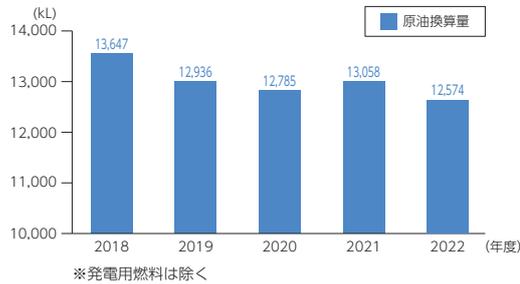
②水使用量の削減

瞬間流量計を設置し、設備洗浄時の水使用量を制御し、前年比約15%の削減を行いました。

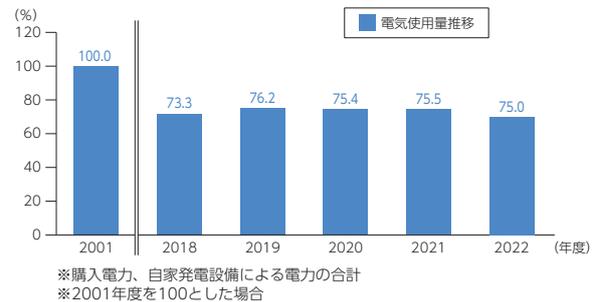


全工場のエネルギー使用量推移

■原油換算量 (電力を除く)



■電気使用量推移



緊急事態を想定した対応訓練の実施



種々の緊急事態に対応するため、設備の緊急事態を想定した訓練を実施し、手順の確認と見直しを行っています。油脂タンク類、排水処理施設、ガス使用施設、自家発電設備、薬品類取扱い施設、廃棄物保管場所などでの緊急事態を想定した訓練を行い万一の事態に備えています。また、各設備において地震による緊急事態を想定した訓練も実施しています。訓練の結果により、必要に応じて対応手順の見直しや設備の改善などを行いました。

環境リスクマネジメント

種々の事故を想定した緊急時の対応訓練を行い、万一の事態にも備えています。

①避難訓練の実施

避難訓練時には、避難経路の確認、消火器や消火栓を使用した消火作業や応急救護と総合的な訓練を実施しています。

②緊急事態の対応テスト

漏洩等による敷地外への環境影響の発生を想定し、定期的に緊急事態の対応手順のテストを行い、必要に応じて手順の見直しを行っています。緊急時、外部機関への確に情報を伝達する訓練も実施しています。

③事故等の状況

報告対象期間中における重大な事故等の発生はありませんでした。

環境の保全・維持、社会との共生



RSPO 認証パーム油の推進

現代社会において、日用品から食品に至るあらゆる製品にアブラヤシの果実から採取されるパーム油が使用されており、当社でも原料や製造工程の一部で使用しています。世界的にパーム油の使用が増加している反面、その生産過程において森林伐採や労働者への人権問題が問題視されており、企業は自然環境と労働環境が保たれたサステナブルなパーム油の生産・調達が求められています。当社では、2019（令和元）年10月に「持続可能なパーム油のための円卓会議（RSPO）※1」に加盟し、2022年2月には、柏崎工場と新発田工場のポテトスナック製品群の工程においてRSPOサプライチェーン（マスマランス※2）の認証を取得しました。今後も持続可能なサプライチェーンの構築に取り組み、環境保全と生産者の権利保護を目指してまいります。



- ※1 パーム油を採取するためのプランテーションの乱開発により、熱帯雨林が急速に失われていることへの対応として設立された非営利組織です。
- ※2 製造過程で、認証油と非認証油が混合される認証モデルです。物理的には非認証油も含んでいますが購入した認証油の数量は保証されています。

2022 日本パッケージングコンテストにて菓子包装部門賞を受賞

「エクセレントスイーツ」シリーズのリニューアルに伴い、外箱にFSC®※1認証製品を採用しました。また、商品の個装フィルムの厚みを見直し5ミクロンの薄物化を図るとともに、その一部にバイオマスフィルムを採用しました。これにより、従来比で年間プラスチック使用量を約3トン削減するとともに、年間CO₂排出量を約20トン削減することが期待できます。公益社団法人日本包装技術協会より、高級感と環境配慮の側面の両立と包装材質を見直した取り組みを評価いただき、「2022日本パッケージングコンテスト※2」において菓子包装部門賞を受賞しました。



- ※1 責任ある森林管理を世界に広めることを目的とする国際的な非営利団体です。
- ※2 時代と社会の要請に対応した、生活文化に優れたパッケージおよびその技術の開発普及に資することを目的として、公益社団法人日本包装技術協会が主催し毎年開催されているもので、2022年で44回目を迎えました。材料、設計、技術、デザイン、ロジスティクス、販売促進、アイデア、環境対応、適正包装など、あらゆる機能から各部門の年間の優秀作品を選定します。

「ブルボン花の輪運動」の実施 ～子供たちに“笑顔の花”を咲かせたい～

2015年度より、公益財団法人花と緑の農芸財団が主催する学校の花壇づくりを応援しながら子供たちの情操を育む社会活動「花の輪運動」へ協賛を継続して実施しています。当社の本社や工場が立地する新潟県柏崎市内の小学校、特別支援学校をはじめとして、当社の各工場立地地域の小学校等100校へ、1校あたりカレンデュラ、パンジーの苗それぞれ100株と、チューリップの球根100個、ムスカリの球根50個をお贈りしました。贈呈校をはじめ地域の皆様より、みんなで一緒に植え付けを行う姿や水やりなどの世話の様子、きれいに咲きそろった花々と子供たちが花を通して豊かに成長していく多くの姿など、うれしい反響を寄せていただきました。これからも、「ブルボン花の輪運動」の広がりを通して、“花の輪・人の輪・心の輪”により、子供たちの健やかな成長と、たくさんの笑顔につながっていくことを願っています。

ブルボン 花の輪運動
 私たちは **学校花壇** を応援しています

学校花壇へ児童達が皆で協力しあいながら花を植え、
 開花までの課程を通して、
 植物に親しみ、命の大切さを学び、
 自然への優しさを育みながら「花いっぱいふるさと」
 を実現する活動の一助となることを目指します。

(花と緑の農芸財団 HP より <http://www.hananozaidan.or.jp/>)

メタバース空間での地域の魅力向上の取り組み

当社は大日本印刷株式会社と連携し、お菓子が持っている楽しさをデジタル上でも体感してもらうことを目指し、「ブルボンメタバース」の実施に取り組んでいます。ブルボンの世界観と立地する地元柏崎市の魅力を一体化した新たなコミュニティ空間として活用を進めています。

また、新潟市が進める古町地区魅力創造支援事業として、メタバース空間「KURASUTO (クラスト)」をオープンしました。「KURASUTO」は、新潟文化の礎である古町地区の魅力を再発見してもらうことを目的としており、株式会社Gugenkaと共創し新潟ならではの風情とどこか懐かしい趣のある空間を構築しています。

今後もお菓子の持つ食とコミュニケーションの役割を活用し、継続して地域の魅力向上や活性化につながる取り組みを企画していくとともに、概念にとらわれない付加価値の提供を目指してまいります。



ブルボンメタバース



KURASUTO

使用後に食べられるストロー「コロネクッキー」の提案

当社では長年培ってきた菓子製造技術の応用や発展により、トッピングとしておいしくお召し上がりいただけるほか、ストローとしても使用できるスティック商品「コロネクッキー」を展開しています。商業施設「湘南T-SITE」で開催された“湘南発 地球を考える”をテーマとしたイベント「湘南博」において、施設内にあるカフェショップとコラボレーションしたドリンクメニューに協力し、お客様にご体験いただく企画を実施しました。

また、「GTF グリーンチャレンジデー 2022」においても、会場内に出店した飲食店様と共同でドリンクメニューを提案し身近に実行できる環境対策として啓蒙を行いました。

引き続き、お客様が自然にかつ身近に始められる環境対策商品として周知を継続してまいります。



社会とつながる商品開発

公益財団法人にいがた産業創造機構（NICO）が主催する「ニイガタIDSデザインコンペティション」において、「コロネクッキー」が「飲み物の味を邪魔せず、食べられることで廃棄されない画期的な魅力とコンセプト、および菓子メーカーならではの着想で社会問題の解決に向けて環境に配慮した商品」と評価していただきIDS審査委員賞を受賞しました。

同時に、暑い国で収穫されるカカオと雪室を結び付け雪室熟成をチョコレートに応用した新潟らしい発想と、雪の結晶をイメージした商品設計を評価していただき、「雪室ショコラ」でも同賞を受賞しました。

今後も、社会課題解決につながる付加価値を高めた商品の開発に努めてまいります。



コロネクッキー



雪室ショコラ

社員の健康を重視した経営

当社は、従業員が心身ともに健康で、生きがいを持って働き続けられ、多様な人財が生き活きとその能力を発揮できる職場は、働く意欲を高め企業の活動や生産性の向上、家庭生活の充実につながることを考え、戦略的な健康経営をさらに推進するため「ブルボングループ健康宣言」を制定し継続した活動を実施しています。

ブルボングループ健康宣言

- 1.社員一人ひとりが大切な経営資源～人財～と捉え健康を重視した経営を推進します。
- 2.心も体も健康で、明るく生き活きと働くことができる職場環境の構築に取り組めます。
- 3.健康に関する会社の考え方や取組みを社員一人ひとりが理解し、自発的・積極的に健康の保持推進に努めます。



従業員の健康と企業活動の発展に資する取り組みを推進するにあたり、「生活習慣病対策」「メンタルヘルス対策」「働き方改善」「女性の健康推進対策」「禁煙対策」の5つを重点項目として掲げています。このたび、経済産業省と日本健康会議が共同で実施する「健康経営優良法人[※]2023～ホワイト500～」の認定をいただきました。今後も、社員の一人ひとりが健康で心身ともに充実していることがお客様の心を豊かにしたり、多くの笑顔につながることを考え、健康増進に向けた取り組みを積極的に進めてまいります。

※「健康経営優良法人」認定制度：地域の健康課題に即した取組や日本健康会議が進める健康増進の取組をもとに、従業員の健康に特に配慮した経営を実践している法人を顕彰する制度です。健康経営優良法人（大規模法人部門）の認定法人の中で、健康経営度調査結果の上位500法人については、特に「ホワイト500」として表彰されます。



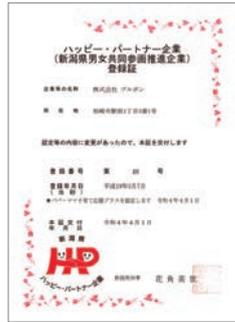
また、従業員に向けたがんに関する情報発信、がん検診に関する費用助成などのがん対策に対する積極的な取組が評価され、厚生労働省委託事業の「がん対策推進企業アクション」から、令和4年度（2022年度）の「がん対策推進優良企業」として表彰をいただきました。

ダイバーシティ&インクルージョン (D&I) の推進



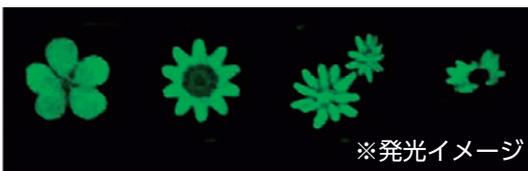
当社では、性別や年齢をはじめとして国籍、これまでの経験など多様な背景をもつ社員がそれぞれの持ち味や個性を認め合い、能力を最大限活かし合う工夫や取り組みを推進しています。具体的な活動として、ダイバーシティ & インクルージョン (D&I) に関する会社方針ならびに、男女の育休取得率や社員の働き方に関する目標を策定し、2021（令和3）年5月に全社横断のプロジェクトを立ち上げました。プロジェクトの活動により、D&Iにまつわる社内制度や情報の周知および発信、会議運用の制度見直し、育児や介護等の両立支援に関する各種活動および施策の提言などを行いました。今後もこの活動を一つの柱として、D&Iの推進を迅速に効果的に進めてまいります。

次世代育成に関する支援



2017(平成29)年6月に次世代育成支援対策推進法に基づく子育てサポート企業として「くるみん」の認定を、(株)ブルボンおよび北日本羽黒食品(株)(現(株)ブルボン鶴岡工場)でいただきました。さらに2022年8月には、より厳しい認定基準を満たした企業として「プラチナくるみん」の認定をいただきました。当社では、従業員の子育てを積極的にサポートし、育児休暇取得率は女性100%、男性95.5%と、全国平均を上回っています(2022年度実績)。また、職場における男女共同参画や子育て支援などの取り組み推進企業として、新潟県知事より「パパ・ママ子育て応援プラス認定」が付加されたHappy・パートナー企業(新潟県男女共同参画推進企業)として登録いただいています。今後も制度や施策の充実を図り、男女ともに働きやすい職場環境づくりを推進してまいります。

ローリングストックの周知と推進



近年、日常生活で消費しながら使った分だけ備蓄していく“ローリングストック”の考えが広まっています。当社では、蓄光インクを使用したラベルが暗所でやわらかく発光するミネラルウォーター「天然水sonaLno500ml」を発売しました。「天然水sonaLno500ml」は、室内で電灯の光が当たりやすい場所に保管しておくことで、暗くなると蓄光インクを使用したラベルがほんのりと光を放ちます。目に見える場所に置くことで普段使いを可能とし、“ローリングストック”をより手軽に行っていただける設計としました。

「熱中症予防声かけプロジェクト」での活動



新潟県三条市役所福祉保健部健康づくり課主催「健康教室」ミネラル塩飴提供
株式会社ブルボン

新潟県三条市役所福祉保健部健康づくり課主催「健康教室」(夏場は熱中症予防を中心とした講話を実施)等へ本プロジェクトロゴを使用したオリジナルパッケージの「ミネラル塩飴」提供。参加者へ配布。
「熱中症」がメインテーマとなる講話ではもちろんですが、「熱中症」がメインテーマではない出張トークにおいても、ミネラル塩飴を持参することで短時間であっても、熱中症の予防について関心を持って聞いていただくことができました」と評価をいただきました。(2021年7月5日)



「熱中症予防声かけプロジェクト」に賛同し、2016(平成28)年度より、発汗の季節に塩分やミネラルを手軽に補給できる「ミネラル塩飴」で参加しています。「熱中症予防声かけプロジェクト」は、「ちょっとひと涼みませんか」と声をかけあうゆとりと気遣いで、熱中症予防を啓発する活動です。2022年度は新潟県三条市福祉保健部地域包括支援センターが主催した「集いの場」において、参加者への「ミネラル塩飴」の提供と摂取時の注意事項の資料配布を実施し、熱中症予防啓発の活動を行いました。積極的に官民で連携し多角的に展開をした取り組みとして、熱中症予防声かけプロジェクト実行委員会より「官民連携部門優良賞」をいただきました。

引用： <https://www.hitosuzumi.jp/>

“心と体の健康づくり”の推進

当社は、豊かな生活と健康に寄与する“食”の提供に加えて、CSR（企業の社会貢献活動）の一環で、“心と体の健康づくり”をテーマに、“文化・芸術”や“スポーツ”の支援と次世代育成の活動に取り組んでいます。

【文化・芸術支援活動】

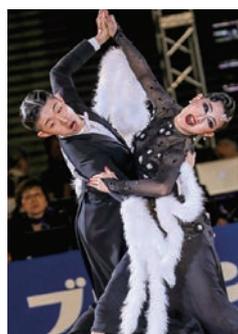


© フジテレビ



- 「めざましクラシックス」：“クラシックをもっと身近に!”をコンセプトにし、1997(平成9)年にスタートしたカジュアルクラシックコンサートです。当社はその振興・発展にスタート時から協賛活動で支援しています。長年にわたり人気を集めており、東京での定期公演の他、夏季のサマースペシャル公演や地方公演にも支援の活動を拡げています。
- 「Donald・Keene・センター柏崎」：日本文学研究の第一人者であったDonald・Keene氏の日本への思いや、研究・著作活動等歩まれた生涯を紹介する施設で、同氏の人となりや研究への情熱など真摯な生き方をお伝えする活動を支援しています。
- 「囲碁」：囲碁は「頭のスポーツ」といわれ日本国内のみならず、世界各国で楽しまれています。当社は2013(平成25)年から「全国高校囲碁選手権大会」への協賛を通じ、囲碁の普及・発展を支援しています。

【スポーツ支援活動】



- 「水球（ウォーターポロ）」：50年以上もの間、地元・柏崎市で育まれてきた水球の伝統を発展させ、2010(平成22)年に社会人チームとして発した「ブルボンウォーターポロクラブ柏崎」をネーミングライツなどで支援しています。現在では社会人から小学生までの階級を有する日本最大級のクラブチームとして、社会人のトップ選手が小学生などへの指導を行うなど、次世代育成にも努めています。また、2011(平成23)年からは水球の日本代表チームのオフィシャルパートナーとしてその発展にも関わっています。世界を目指して日々努力を続ける選手の支援と、スポーツの力による一体感や地域の活力を生み出す活動に取り組んでいます。
- 「ダンススポーツ」：最近国民的生涯スポーツとしても注目を集めており、その普及・振興を支援しています。日本国内のトップを決める『三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権』には2007(平成19)年から協賛活動をスタートし、また次世代を担うジュニア・ユース選手のトップチームの活動をネーミングライツでも支援しています。
- 「スケートボード」：新潟県村上市を拠点に、スケートボード競技の認知向上と、人々の心身の健全な発達と社会の発展を目指す一般社団法人日本スケートボーディング連盟の活動を応援しています。当社は主にスケートボード大会への協力を通じ、スケートボードスポーツの振興をサポートしています。
- 「自転車競技」：新潟食料農業大学（新潟県胎内市）自転車競技部に持久系スポーツ栄養商品「ウィングラム」シリーズを提供しています。活用していただくことで選手の更なる成績向上につながる活動支援を続けています。食とスポーツの融合をテーマに活動を進め、食品と健康に関する研究への相乗効果を期待しています。

会社概要

社名	株式会社 ブルボン
創立	1924年（大正13年）11月20日
資本金	10億3,665万円
代表者	代表取締役社長 吉田 康
従業員数	約5,000名（ブルボングループ計、臨時・パートを含む）
営業品目	ビスケット、小麦粉せんべい、豆菓子、キャンデー、デザート、米菓、スナック、珍味、チョコレート、チューインガム、ミネラルウォーター、コーヒー・ココア飲料、その他清涼飲料水、粉末ココア、冷菓、酒類、米（通販のみ）、パン・インスタントラーメン（自販機のみ）、マスク
本社	〒945-8611 新潟県柏崎市駅前1丁目3番1号 Tel 0257-23-2333(代) Fax 0257-22-2005 URL https://www.bourbon.co.jp/
オフィス 営業拠点	赤坂オフィス(東京都港区)、神戸オフィス(神戸市) 北海道・東北(仙台市)、北信越(柏崎市)、関東(川口市)、中部(北名古屋市)、 中国・四国(広島市)、九州(福岡市)
工場	柏崎工場、上越工場、長岡工場、新潟工場、新潟南工場、五泉工場、 新発田工場、村上工場、鶴岡工場、御代田工場、魚沼工場
グループ会社	エチゴビール(株)、(株)レーマン 波路梦(長興)食品有限公司、波路梦(上海)商贸有限公司、 Bourbon Foods USA Corporation
持分法適用関連会社	BCCA株式会社、株式会社マルキン
開発拠点	試作センター(柏崎市)
研究拠点	先端研究所 栄養科学研究室、新食糧研究室(新潟市バイオリサーチセンター内) 先端健康科学研究室(信州地域技術メディカル展開センター内)
株式上場	東京証券取引所スタンダード市場

ISO14001認証取得の推移

登録認証機関：一般財団法人日本品質保証機構（JQA）

- 2000年6月に(株)ブルボン本社、本社工場（現・柏崎工場）、駅前工場において、認証を取得しました。
新潟県内の食品会社では初めての取得になりました。
- 2005年7月にISO14001の規格変更に伴い、2004年度版へ移行しました。
同年10月に上越工場において認証を取得しました。
- 2005年に駅前工場を本社工場へ統合しました。また、商品開発センター（現・試作センター）を
設立しました。
- 2006年5月の更新時において、登録範囲を(株)ブルボン本社、本社工場、商品開発センターに変更
しました。
- 2007年11月に長岡工場と北日本羽黒食品(株)羽黒工場（現・鶴岡工場）において認証を取得しま
した。
同年12月に新潟南工場と村上工場において認証を取得しました。
- 2008年2月に新潟工場において認証を取得しました。
- 2009年11月に新発田工場において認証を取得しました。
- 2011年2月に五泉工場において認証を取得しました。
- 2015年9月に各工場単位で取得していた認証を全社統合しました。
- 2017年10月にISO14001の規格改訂に伴い、2015年度版へ移行しました。

株式会社 **ブルボン** 総務推進部 広報管理課

TEL :0257-23-5070

FAX :0257-23-2352

ホームページアドレス : <https://www.bourbon.co.jp/>

発行年月日 : 2023年6月

次年度発行予定日 : 2024年6月

UD FONT

見やすく読みまちがえにくいユニバーサル
デザインフォントを採用しています。



環境に配慮した植物油インキを
使用しています。